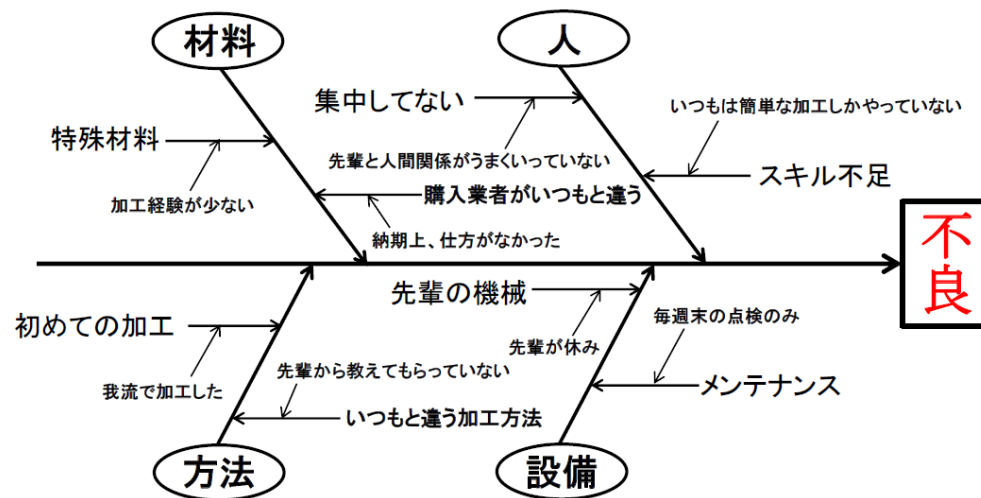


特性要因図

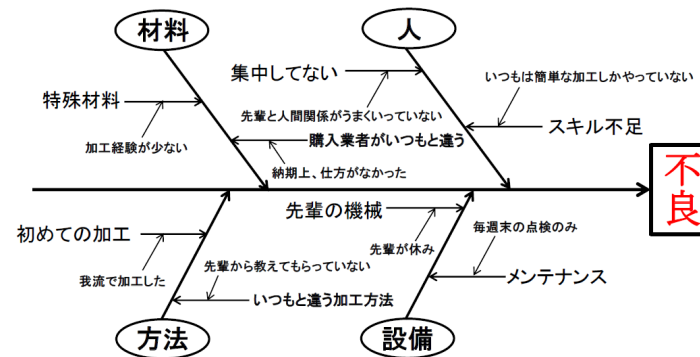
特定の結果(特性)と要因との関係を系統的な図で表し、主要因を推定しやすくしたもの



※魚の骨に似ていることから、魚の骨図、フィッシュボーンチャートとも呼ばれています。

特性要因図とは

不具合(問題)が発生したとき、その原因として候補がいくつも想定できる場合、その原因候補が一覧できるようになぜなぜ問答で整理(大骨を4Mに)すると、原因の究明が効率よく進み、重要な要因を特定しやすくなります。原因の候補を系統的に整理し、根本原因を探し出します。



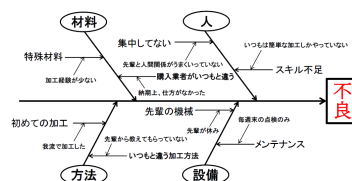
※4Mとは、人Man、設備Machine、材料Material、方法Methodの頭文字「M」からつけられたものです。

特性要因図の作り方・使い方

右端に特性(問題としてしている結果)、左側に要因を配置し、要因は大きな要因からその中の要因、さらにその中の要因というようにつながれていき、大きな要因を**大骨**の要因、その中の要因を**中骨**の要因、さらにその中の要因を**小骨**の要因、この骨の要因を**孫骨**の要因と呼んでいます。

特性要因図は、問題としてしている結果の原因を追究する(要因解析)段階で使い、最終的には、同じQC七つ道具であるパレート図やヒストグラム等を使用して要因の検証を行い、対策を立案して実行していきます。

原因を追究する際に、どのような原因があるかをいろいろな角度・多くの作業者からの意見・発想から洗い出し、検証の必要があると思われる重要な原因を絞り込むのに有効な手法です。



特性要因図作成の注意点

- ①できる限り多くの人に発言させ、アイデアを出すこと
- ②人の意見を否定しないこと
- ③分類名は箇条書きにすること